

# 日本セトロジー研究 (Japan Cetology) 投稿規定

2002年3月制定

2024年6月最終改訂

## 1. 掲載原稿

本誌には、広く鯨類やその他の海棲哺乳類に関する論文（原著、総説、短報、報告、資料、情報）や研究会記事などを掲載する。定義は以下の通りとする。

原著：Original Article 新規性が高く、結論を導くための調査・実験結果、提案する手法や方法が明確であるもの。また、科学的議論をするのに十分なデータを示し、客観的手法によってそれを解析・分析し、結果を導き出しているもの。

総説：Review 最新の知見や最先端の技術を、過去の研究の流れの中に位置付けて発展的に論じるもの。あるいは、過去や現行の文献を新たな視点を持って体系立ててまとめ、独自の視点から論じるもの。

短報：Short Note 十分に科学的議論をするにはデータが少ないが、速報性を重視し、速やかに公表し議論した方がよいと判断されるもの。刷り上がり4頁以内とする。

報告：Report 資料：Reference 情報：Information 鯨類学に関する今後の議論の礎となるような報告、資料、情報。

原稿は未発表のものに限る。ただし、会誌編集委員会が特に必要と認めた場合は、この限りではない。

原稿の長さに制限を設けないが、刷り上がり16頁を超える場合は、追加費用実費を著者負担とする。

掲載記事の著作権は、日本セトロジー研究会に帰属する。

掲載記事は国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が運営する科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) に、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 パブリック・ライセンス (CC BY 4.0) で公表する。

## 2. 投稿資格

原稿の著者は、本会会員に限る。共同執筆者には会員以外のものを含むことができるが、第1著者は会員でなければならない。ただし、編集委員会が認めたときは、会員以外からの特別寄稿を受けることがある。

## 3. 原稿の受付

原稿は、この規定に従って書かれ、かつ直ちに査読に付すことのできる状態になっている場合に限って受付ける。規定に適合しない原稿は、編集委員長が投稿者へ返却する。

## 4. 査読

受け付けられた原稿のうち、論文については、査読を受けるものとする。論文の内容に関して問題があると編集委員が判断したときは、編集委員会として投稿者にその旨を知らせ、訂正を求める。会誌掲載が不適当であると編集委員会がみなしたものについては、その論文原稿に理由を明記して、投稿者に返却する。編集委員会が掲載可と認めた原稿は受理される。

## 5. 原稿の用紙と書き方

A4判の用紙を用いる。行間はダブルスペースとし、左端に行番号を通し番号でつける。

### 1) 論文の構成

和文の場合は、表題、著者名、英文表題、英文著者名、和文要旨、和文キーワード (5つ以内)、英文要旨 (Abstract)、英文キーワード (5つ以内)、所属・所属所在地、英文所属・英文所属所在地、責任著者メールアドレス、本文、引用文献、図説明の順とする。大見出し (緒言、方法等) はゴシック左寄せ改行、中見出しは明朝太字左寄せ改行、小見出しは明朝太字左寄せで、改行せずに1字あけて本文を続ける。さらに細分した見出しが必要な場合には番号 (1, 2, ...) を付け、太字にはしない。

英文の場合は、表題、英文著者名、英文要旨 (Abstract)、英文キーワード (5つ以内)、英文所属・英文所属所在地、責任著者メールアドレス、本文、引用文献、図説明、和文表題、和文著者名、和文所属・和文所属所在地、和文要旨、和文キーワード (5つ以内) の順とする。

著者名のあとに上付き文字 <sup>1), 2)</sup> で所属との対応を示す。責任著者は上付き文字\*をつける。

## 2) 用語・句読点・生物名・人名・単位など

当用漢字，新仮名使い（生物名は片仮名）を用いる。和文の句読点は全角コンマ「，」，全角ピリオド「。」を用いる。英字，数字は半角文字を用いる。学名は国際命名規約にしたがい，イタリック体で表記する。和文論文本文および文献リスト中の和文文献では原則全角括弧「（）」を，英文論文本文，文献リストおよび和文論文の文献リスト中の英文文献では半角括弧「（）」を用い，括弧の外側には半角空白を入れる。英文における引用符は Curly quotes 「single, “double”」を用いる。アラビア数字，メートル法，摂氏温度を用いる。cm などの単位の前は，和文論文でもスペースを入れる。%，℃の前は，スペースを入れない。

## 3) 引用文献（ここでは，全角と半角を区別するために半角文字を青色にしているが，原稿では全て黒を用いる。）

文献は本文中に引用されたものに限る。かつそのすべてを記さなければならない。文献の配列の順序は，著者名（姓前名後）のABC順とする。姓の同じものについては名のABC順による。第1著者が同一の場合は単独のものを最初におき，そのあとは第二著者の氏名のABC順とする。また，著者が同一のものについては，発表の年代順とする。同一著者かつ同一年のものについては，年号のあとにアルファベットを付して，2002a, 2002b のように区分する。

欧文文献の著者は，ファーストオーサーだけでなく他のオーサーについても「家族名（ラストネーム），個人名（ファーストネーム）の頭文字。ミドルネームの頭文字。」の順に記す。ラストオーサーとその直前のオーサーとは，「and」で接続する。2名の場合は「and」だけでよい。DOIがある場合は，<https://doi.org/>からはじまるURL形式でDOIを記載する。

雑誌の場合：著者名（年号）論文表題. 掲載雑誌名, 巻: ページ. [https://doi.org/...](https://doi.org/)

単行本の場合：著者名（年号）表題. ○○pp., 発行所, 発行地.

オンライン資料の場合：著者名（年号）表題. <https://...> (確認日)

### 文献記載例

岸野洋久 (1991) 鯨類資源量解析におけるライントランセクト法の適用. 鯨類資源の研究と管理 (桜本和美・加藤秀弘・田中昌一, 編), pp. 117-131, 恒星社厚生閣, 東京.

平坂恭介 (1936a) 本邦近海産鯨目へ添加. 動物学雑誌, 48: 72-74.

本間義治・青柳彰・中村幸弘 (1995) 1993年5月から1994年5月の間に得られた新潟県内における鯨類の漂着・採集・目撃記録. 日本海セトロジー研究, (5): 23-26.

環境省 (2019) クマ類の保護及び管理に関するレポート (平成30年度版).

[https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-report/h30report\\_kuma.pdf](https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-report/h30report_kuma.pdf) (2021年8月15日確認)

Jefferson, T. A., Webber, M. A., and Pitman, R. L. (2007) *Marine mammals of the world: a comprehensive guide to their identification*. 592pp., Academic Press, Amsterdam.

Kasuya, T. (2002) Giant beaked whales. In: Perrin, W. F., Wursig, B., Thewissen, J. G. M., (eds) *Encyclopedia of Marine Mammals*, pp. 519-522, Academic Press, London.

Kasuya, T. and Ohsumi, S. (1984) Further analysis of the Baird's beaked whale stock in the western North Pacific. *Report of International Whaling Commission*, 34: 587-595.

Morisaka, T. and Connor, R. C. (2007) Predation by killer whales (*Orcinus orca*) and the evolution of whistle loss and narrow band high frequency clicks in odontocetes. *Journal of Evolutionary Biology*, 20: 1439-1458. <https://doi.org/10.1111/j.1420-9101.2007.01336.x>

Marsh, N. and Bamber, C. (1999) Development of a specialised round and firearm for the humane euthanasia of stranded sperm whales (*Physeter macrocephalus*) in New Zealand. *Document IWC/51/WK5 submitted to the IWC Workshop on whale killing method, May 1999*.

本文中に文献を引用する場合は，下記の例にならって記載する。著者が2名の場合は，著者姓を「and」または「・」で連ねる。3名以上の場合は「et al.」または「ら」を用いて省略する。著者名と年の間は空白とし，複数の論文を引用する場合は「，」で区切る。

### 本文引用記載例

Wada et al. (2003) は...

Wada et al. (2003) reported ...

大石 (1999a) で...

前報 (本間・古川原 2008) を...

...になった (Yamada 2008) .

...ていない (Perrin and Brownell 2007) .

...され (Yamada and Chou 2004, Yamada et al. 2004b, Yamada et al. 2006 2007, 山田ら 2007) ,

...ている (Yamada et al. 2006, 山田ら 2007 2008) .

## 4) 図と表，写真およびその説明

図と表は、1つずつ別ファイルに書く。なお、図と表および写真の横幅は全段か片段仕上げとなることを考慮し作成する。また、図と表、写真は必ず本文中に、「図 1, Fig. 1, 表 1, Table 1」等と引用する。

表の罫線は最小限に留め、縦の罫線は用いない。各表の上部に簡潔な説明を付け、末尾には句点、ピリオドを付さない。罫線と文字のみで作成する。

図説明は改行しない。本文の最後に一括して図説明を書く。図の作成者や写真の撮影者が著者と異なるときは、説明中にそのことを明記し、又必要な場合は、あらかじめ著作権者の許可を受けておくこと。

#### 5) 英文について

論文中の英文（要旨を含む）については、著者の責任において投稿前に英文校閲に付すこと。

#### 6) 電子付録について

電子付録として関連資料の電子ファイルを J-STAGE 上に置くことができる。ファイルの種類、容量や件数は J-STAGE の仕様の範囲内とする。電子付録は論文原稿と同時に投稿され、査読において公開が認められる必要がある。電子付録は必ず本文中の関連場所で引用する。

### 6. 原稿の送付

原稿と図表は、電子ファイルで編集局に提出する。ファイル形式は原則として MS-Word, MS-Excel, Adobe Illustrator とする。これ以外の形式の場合、ファイル容量が大きく 1 通のメール添付で送付できない場合は、提出に先立って編集局に相談すること。

### 7. 校正と別刷

著者校正は原則初校のみとする。

論文の著者には、1 論文につき 50 部の別刷、および出版された論文の PDF ファイルを贈呈する。50 部を越えて別刷を必要とする場合、超過分についての実費を自己負担とする。

### 8. 規定の適用・掲載・改訂など

この規定は、日本セトロジー研究 2024 年 7 月以降に投稿される論文から適用する。

この規定は、日本セトロジー研究の毎号に掲載する。

この規定の改訂は、編集委員会の議を経て幹事会の承認を得て行う。

原稿送付先および編集に関する連絡先

〒041-8611 北海道函館市港町 3-1-1 北海道大学 松石研究室  
日本セトロジー研究会会誌編集局  
TEL 0138-40-8857  
E-mail: jcedit@fish.hokudai.ac.jp